

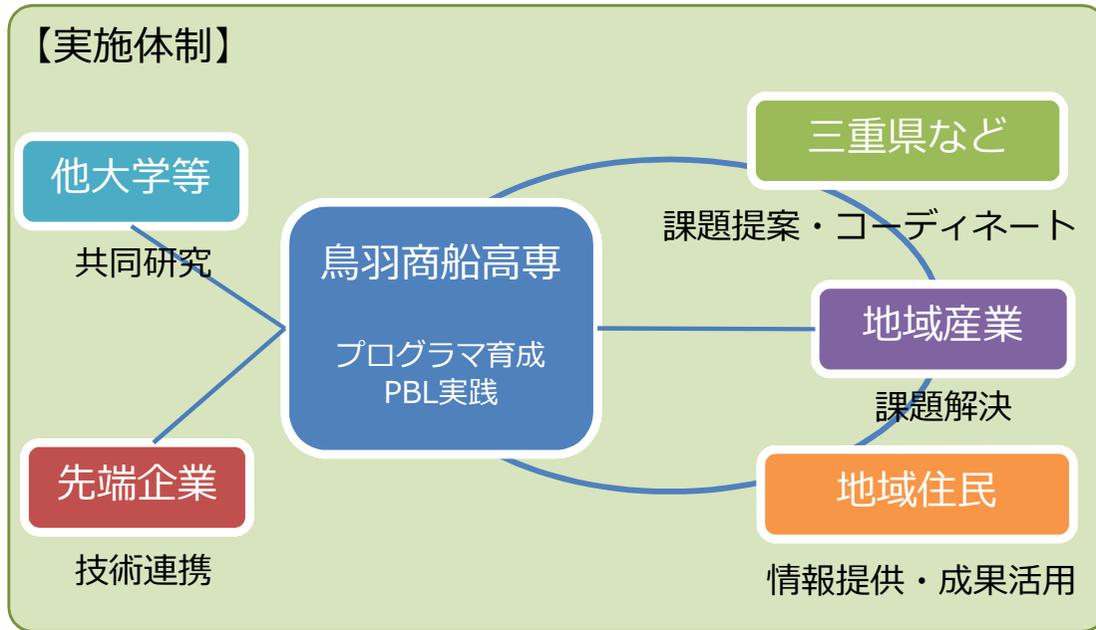
第4次産業革命を促進するプログラマ育成と地域活性モデル

【取組の目的、内容】

農林水産・観光業が盛んな三重県の抱える課題をPBLで解決し、学生の技術向上はもちろん、地域貢献を通じて知の拠点となる。

入学後に集中したプログラミング教育を実施することで論理的思考能力を育成し、AI、IoTの原理と活用方法を理解した学生が、それぞれの専門分野での適用を図る。

【実施体制】



【工程表】

時期	取り組み内容
H29.7～	学内組織発足 制御情報工学科での先行実施
H29.10～	取り組み事例のホームページでの公開・SNS配信 情報処理学会・電子情報通信学会での発表 フォーラム開催、事業の効果検証
H30.4～	商船学科・電子機械工学科での実施 学科改組に向けたカリキュラム決定 高専フォーラム・日本工学教育協会での発表
H30.10～	フォーラム開催、事業の効果検証 新学科開設（H31.4）

【成果指標】

	28年度	30年度 (目標値)
①論理的思考能力育成に関する教材開発・研究	3件	8件
②地域連携PBLへの参加人数の増加	20名	80名
③IT関連資格試験の取得	5～10%	50%以上（H33）

【第4期中期目標期間への展開（見込み）】

- 平成31年度から改組予定である新学科の大きな柱である論理的思考能力育成プログラムを構築できる。
- 三重県における第4次産業革命の事例を通じて「地域への貢献」や「新産業を牽引する人材育成」を実現できる。